

令和6年度 自己評価集計

認定こども園南売市保育園

No.	チェック項目	はい	いいえ
1	相手に対して正対し、目をきちんと合わせ、挨拶や会話がきちんとできる	92 %	8 %
2	きれいな言葉遣いで、心地よい会話ができる	83 %	17 %
3	いつも笑顔で対応できている	83 %	17 %
4	勤務時刻には、業務を開始できるようにしている	96 %	4 %
5	社内共有カレンダーや掲示板、グループチャット等に必ず目を通し、把握して業務に入っている	96 %	4 %
6	電話が鳴ったら、早く出るようにしている	75 %	25 %
7	電話の用件は間違いが無いようにメモを残し、確認や伝達を行っている	92 %	8 %
8	髪色が明るすぎたり、エクステンションや、色のついたコンタクトレンズを使うなど派手な印象にならず、落ち着いた安心感を与えるような身だしなみを実践している	100 %	0 %
9	髪が顔にかかったり爪が伸びたりなど、不衛生にならないように日頃より気をつけている	100 %	0 %
10	ドアの開閉音や歩くときの靴音、物の取り扱いに注意を払い、大切に使用している	96 %	4 %
11	乳児室の前に靴を脱ぎっぱなしにせず、きちんとそろえたり、仕舞っている	92 %	8 %
12	保育室内を清潔に保つため、乳児室から出るときは、上履きや専用スリッパを履いている	88 %	12 %
13	睡眠を十分にとり、勤務に支障をきたさない規則正しい生活を送っている	96 %	4 %
14	体調不良のときは速やかに通院している	100 %	0 %
15	自分自身の能力や知識を向上させるために、自発的に努力している	79 %	21 %
16	研修等に積極的に参加するなど、意欲を持っている	71 %	29 %
17	研修報告などで気付いたことを自分の業務に反映できる	67 %	33 %
18	業務上の事案と私的な事案を明確に区別することができる	96 %	4 %
19	園の方針、活動の目的、または、問題意識の共有などを職員間で共通理解し、協力できる	96 %	4 %
20	他職員間との協調性や信頼感がある	79 %	21 %
21	思わしくない事があっても自分本位にならないよう、物事を客観的に考えることができる	96 %	4 %
22	園の職員として、信頼を損なう行動をしていない	100 %	0 %

23	「皆がやっているから」「以前からの慣例だから」という思いにとらわれていない	67 %	33 %
24	先輩として、後輩の見本になり適切に指導したり、後輩として、先輩の指導を素直に受け入れることができる	96 %	4 %
25	苦手な人を無視したり、陰口を言わない人権を守る強い意志がある	96 %	4 %
26	苦手な人とも一緒に活動するようにし、公平性を保っている	100 %	0 %
27	お互いの長所・短所などの相互理解を深め、困った時は助け合い、互いに適切な援助をすることができるように努めている	96 %	4 %
28	おののの特性や得意・不得意を理解し、良い方向へ進めることができる	92 %	8 %
29	状況に応じて適切な助言や的確なフォローができ、コミュニケーションをよくとり、互いに安心して相談できるように心掛けている	79 %	21 %
30	適切な助言をするために、全体の状態を見渡せる能力が身についている。また、その時々保育の方向性(目的)を正しく理解している	54 %	46 %
31	クラスの出し物やイベントの際には、自分の考えだけで自分勝手に進めず、主任や他のクラスの職員とも相談しながら、進めていくことができる	96 %	4 %
32	他の職員の子どもへの対応が不適切保育かもしれないと思われる場面を見過ごさず、話し合うようにしている	63 %	37 %
33	協力体制の重要性を認識し、上司、同僚と仲良くしている	88 %	12 %
34	考えついたこと、思いついたことを上司に相談できる	79 %	21 %
35	業務遂行にあたり、正確、かつ迅速、こまめに上司に報告、連絡、相談を実践している	92 %	8 %
36	小さなことでも、仕事上不安な事は、一人で抱えこまず上司に相談している	83 %	17 %
37	上司の指示を実行し、結果を報告している	83 %	17 %
38	セクシャルハラスメントやパワーハラスメント、虐待など保育士にあるまじきことはしない	100 %	0 %
39	公平に人の話を聞いたり話したりし、正確に伝達できる	100 %	0 %
40	自分の意見を話すだけでなく、相手の意見を偏見を持たずに聞くようにしている	96 %	4 %
41	分からない時にはその旨を正直に伝えうやむやにせず、再確認をしている	100 %	0 %
42	自ら進んで職務を完全遂行する、積極的な姿勢がある	92 %	8 %
43	職務遂行に積極的で、担当以外の業務にも進んで取り組むことができる	88 %	12 %
44	掃除などの当番業務を進んで手伝うことができる	83 %	17 %
45	週の振り返りを基に、日々の乳幼児の状況にあった保育をしている	79 %	21 %
46	行事を見通し、協力しながら準備を進め、毎日楽しく勤務している	83 %	17 %

47	子どもに対して、しっかりと目を見て挨拶や、やり取りできるように心掛けている	100 %	0 %
48	子どもの人権を尊重し、絶対に呼び捨てしないように心掛けている	54 %	46 %
49	他の職員が子どもを呼び捨てにした時には、本人に知らせるようにしている	4 %	96 %
50	子どもに対して、命令や指示、説得ばかりにならないように子どもの気持ちを汲み取るように心掛けている	96 %	4 %
51	子どもが自分で出来ることを待たずに先に大人がやってしまわない様に子どもの自立心を大切にしている	96 %	4 %
52	子どもに寄り添い共感できるように常に心掛けている	100 %	0 %
53	先に答えを言ってしまうずに、子どもが自分で考えつくチャンスを与える言葉がけや、援助を擦量に心掛けている	96 %	4 %
54	子どもに、何かをやらせようとして無理強いしないように気を付けている	96 %	4 %
55	子どもが何かをやりたいという気持ちを尊重して認められるよう努力している	96 %	4 %
56	身近な動植物を飼育、栽培する中で、それらをかわいがったり、いたわったりする経験を大切にしている	88 %	12 %
57	数量や図形などに興味を持つように、生活の中で数を数えたり、形を意識する等工夫して保育している	92 %	8 %
58	子どもの手本であることを理解し、片付け(玩具や遊具)、食事に使う布巾、口拭きタオルを投げることなどが無いよう、常に気を付けている	92 %	8 %
59	園児の保護者に対する支援及び地域の子育て家庭への支援双方に、積極的に取り組まなくてはならないことを理解している	100 %	0 %
60	進んで保護者に話しかけることができる	88 %	12 %
61	子どもの送迎時や行事など様々な機会を通し、子どもの様子や保育の意図を説明し、保護者との相互理解を図っている	75 %	25 %
62	子どもの最善の利益を考慮し、保護者の気持ちを受け止め、保護者一人ひとりの自己決定を尊重することを理解している	96 %	4 %

【 分析と課題 】

1、ほぼ全員が実践できている点

身だしなみや衛生管理については「はい」の回答が非常に多く、園の基本的なマナーが組織全体的に浸透している。

・身だしなみと衛生管理（項目 8、9、14、38）

◦落ち着いた身だしなみ、衛生面への配慮、ハラスメントの防止などが徹底されている。

- ・子どもへの基本的な関わり（項目 47、52、55）
 - 目を見ての挨拶、子どもへの共感、意欲を尊重する姿勢が定着している。
- ・誠実な業務姿勢（項目 18、22、26、41）
 - 公私の区別、信頼を損なわない行動、分からないことを正直に伝える姿勢が定着している。
- ・報連相の基盤（項目 35、39）
 - 情報の正確な伝達や、上司への報告・連絡・相談の重要性が理解されている。

2、今後の課題（回答に「いいえ」が比較的多い項目）

改善の余地がある、または職員が「もっと頑張らなければ」と感じていること

項目番号	評価内容（課題点）	「いいえ」の数
49	呼び捨てにした職員への指摘	23
48	子どもの呼び捨て防止（意識の徹底）	12
30	全体を見通す能力・目的の正しい理解	11
32	不適切保育の疑いがある際の話し合い	9
17	研修内容の業務への反映	8
23	慣例にとらわれない姿勢	8

3、今後の対応

① 「不適切保育」への相互注意の難しさ（最優先課題）

項目 49 呼び捨ての指摘で「いいえ」が 23 名と突出している。また、項目 32 不適切保育への話し合いも課題となっている。

分析： 職員同士の関係は良好であるが、「同僚のミスや不適切な行動を注意しにくい」という心理的ハードルがある。

対応： 「注意」ではなく「子どもを守るための共有」という文化を作っていく。会議等で「呼び捨て禁止」を再度共通ルールとして確認し、お互いに声をかけあえる仕組みを検討していく。

② 専門性の向上とアウトプット（研修の活用）

項目 17 研修の反映や項目 30（全体を見通す力）に課題が見られる。

分析： 研修を受けて満足してしまい、具体的にどう保育を変えるかという「実践」に繋げるプロセスに自信がない職員が多い。

対応： 研修報告書を出すだけでなく、短い時間で「これを取り入れる」という一言宣言を共有する場を設け、意識できるようにしていく。

③ コミュニケーションのさらなる向上

項目 6 電話対応や、項目 61 保護者への意図説明に、若干の苦手意識が見られる。

分析： 電話対応への苦手さから緊張を感じている可能性がある。

対応： 電話対応のクイックレスポンスや、保護者への「保育のねらい」の伝え方について、園内研修を行っていく。